【Zigzag-memo　No31】　カタクリとアオキ

早春に咲く、印象的で大好きな花を取り上げる。

カタクリの花	アオキの花実
両性花	単性花
地下茎は深くにある。花はうつむくように咲く、６枚の花びらは強く反り返って、花の中央からは雌しべと雄しべが突き出している。雌しべは長く、先端は３つに裂けてラッパ状に広がっている。雄しべは長いものと短いものが３本ずつあり、葯（やく；花粉の入った袋）は黒っぽい紫色で、花粉は黄色。子孫をつなぐ雌しべと雄しべは同じ花の両性花である。	
図－１	雄花　　雌花
カタクリの植生からは、擬人化すれば、首を垂れて謙虚を持ちつつ、向上心をも常に持ち続けている。雄雌両性具有であり、きれいな調和を保持している。健気ながらも根を深く張って、いわば軸足をしっかり維持している、という印象を持つ。「実るほど首を垂れる稲穂かな」（作者不明）が浮かぶ。	４月に開花し、雄花と雌花は別株の単性花であり、どちらも濃い紅色で４枚の花びらを持つ。雄花には４本の短い雄しべがあり、黄色い花粉が目立つ。雌花には平たい柱頭を持つ太い雌しべがある。アオキは四季を通して青々としている。晩秋に結実し、冬の終わりから春４月に真っ赤に色付いて完熟する。
	図－２

アオキの植生からは、普通の植物は春に花が咲いて交配し、秋には実が完熟するが、これは４月に完熟する。擬人化すれば、いわば、姿は１年中青々として青年期でありながら、半周遅れで一人前になるのだ、じっくり熟成する大器晩成のイメージを持つ、その時には人目に付く真っ赤な色をしている。雌雄共に花の形が十字形をしている。、

カタクリの一つにして両性花は自らに左右両極具有であり、アオキは一つにして単性花だが十字路を連想させ、両者合わせて、思想においては左右・上下の交差の大事さを暗示する、一方に偏波しない教訓を得る。また、数日間した花を咲かせないために「春の儚い命」と称されている。

世の中で一番醜い人種と揶揄している中に、思想信条が岩体状に固まり、先生と言われて大威張りの国会議員は、カタクリ・アオキとは真逆に違うものである。75 年以上の人生で、国会議員でなくても数多の類似猿（地方議会議員、コミュニティの『何とか長』等）に遭遇して来たが、そういう人種はつまらなかった。　“　先生と言われてその気の代議士よ　月の教えを薬と為せや　”

カタクリとアオキの訓える処に素直に従い、自らの致良知（良心）に従順に生きたいものである、そして、これらから最後に浮かんだのが『対等互啓（恵）』である。

（end）